



# 商品開発・管理学会 - 商品やブランドの開発・管理を通じて 現代社会の問題の解決に挑戦する -

長沢 伸也\*

## Association of Product Development and Management - Challenge to Solve the issues in Modern Society through the Development and Management of Products and Brands - Shin'ya NAGASAWA\*

**Abstract**— This paper introduces the outline of the Association of Product Development and Management. The purpose of the Society, events such as national conferences, and the board of directors will follow. In addition, the outline and seminars of the Attached Institute, and the publications by the Society are introduced.

**Keywords**— Association of Product Development and Management, Product development and management, Brand management, Branding

### 1. はじめに

2020年10月より横幹連合に加盟しました商品開発・管理学会について以下にご紹介します。

筆者は2019年より同学会会長を務めておりますが、2020年に日本感性工学会の選出で横幹連合の理事を務めているご縁で加盟の音頭を取りました。学会長懇談会では久々の加盟学会だとのことで歓迎され感激致しました。

しかしながら、正直申し上げて学会員100名強の小さな学会にとって年会費はかなりの負担となります。まずは加盟してみて、商品開発・管理で言うところの「バリュー・フォー・マネー」を見てみようという「お試し加盟」となっておりますことをお含み置きください。

### 2. 商品開発・管理学会の概要

商品開発・管理学会は、2001年に設立された商品開発・管理研究を専門とした学術組織です。

当学会の概要をTable 1に、設立趣意をTable 2にそれぞれ示します。

Table 1: 商品開発・管理学会の概要.

学会名	商品開発・管理学会
ふりがな	しょうひんかいほう・かんりがっかい
英語表記	Association of Product Development and Management
設立	2001年4月1日
所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経営管理大学院 若林靖永研究室内
会長	長沢伸也 (早稲田大学大学院経営管理研究科教授) 任期: 2019年8月より2021年8月まで (学会第10期)
会員数	個人正会員: 124名 (2020年8月現在)
事務局	若林靖永 (京都大学経営管理大学院経営研究センター長) TEL: 075-753-3471 FAX: 075-753-3492 E-mail: waka@econ.kyoto-u.ac.jp
郵便振替口座	00880-2-61381 商品開発・管理学会
全国大会	春と秋または夏の年2回開催 (基調講演, 特別講演, 統一論題報告, 自由論題報告等)
会員総会	秋または夏の全国大会と同時開催
学会誌	『商品開発・管理研究』(ISSN 1880-0297)を年2回発行 (査読付き論文, 査読付き研究ノート等を掲載)
付属研究所	産学連携等のプロジェクトについてセミナー等を開催
ホームページ	<a href="https://apdmj.jp/">https://apdmj.jp/</a>
横幹連合代議員	長沢伸也 (学会長)
備考	日本学術会議より「広報協力学術団体」認可 (2005年9月20日付) 「日本学術会議協力学術団体」認可 (同年10月25日) 横断型基幹科学技術研究団体連合に加盟 (2020年10月1日付, 2020年8月29日開催理事会および会員総会で承認)

出所: 商品開発・管理学会 (2020)「横断型基幹科学技術研究団体連合加盟申込書」を加修修正

\*商品開発・管理学会会長 (早稲田大学ビジネススクール教授)

\*President, Association of Product Development and Management  
(Professor at Waseda Business School)

Received: 30 April 2021.

**Table 2: 商品開発・管理学会設立趣意.**

20世紀は、総じて日本企業が、欧米企業に追いつけ追い越せを信条に、高品質、高性能、低コストに向けて努力を積み重ねてきた。そしてそれなりに多くの日本企業は成果を収め、海外において高い評価を受けるに至った。

21世紀を迎えたこの歴史的な転換期に、日本企業は世界の中のリーディング・カンパニーとして、旧来の姿勢を改め、積極的に商品開発を推進し、富める国、貧しい国に関係なく文化水準の高い生活を支援し、貢献することが責務と思われた。

現在わが国の産業では、ハイテクノロジーやニューサービスなどの革新が進行しているが、なかでも情報通信、コンピュータ、ソフトウェア、マイクロエレクトロニクス、バイオテクノロジー、新エネルギー、新素材、都市交通、地球環境、健康医療、宇宙開発などに、一層の期待が寄せられている。つまり、日本企業は、上記の市場ニーズや需要に応じて、さらに技術革新を進展させ、新事業として確立、発展させることが必要、と予測されている。

またそのような挑戦を通して、わが国が21世紀の国際社会において、確固とした尊敬と信頼を獲得する方向と評価された。

ここに時代の重要性に鑑み、われわれ有志は、統合された商品開発に関する学術団体のない現状を知り、「商品開発・管理学会」を設立することにした。

基本は、いかなる軍需用品の開発にも関わらない、また自然環境を守る、という前提で、大学及び研究所をはじめ、あらゆる産業分野の商品開発に関心を抱く人々の参加による学会を、結成しようとするものである。ここでは、専門が社会科学であれ、自然科学であれ、人文科学であれ、商品開発とその管理に関心のあるものは、研究大会、研究会に参加して、関係する研究の報告、また関連のある課題の討論を通して情報交換を促進し、商品開発に関するわが国情報発信の拠点とすべく考えた。

なお、「商品開発および管理」に関する研究対象は、あらゆる産業分野にわたる。つまり、特定の業種に限定されない商品開発であり、そのシステム管理を取り扱うものである。そのため本学会は、より充実した研究の成果を得るために、研究報告と討議が尽くされることとする。

2000年5月20日/2000年12月15日/2001年1月12日

商品開発・管理学会設立発起人代表

横田澄司(椋山女学園大学) / 小川孔輔(法政大学) / 恩蔵直人(早稲田大学)

辻 正次(大阪大学) / 井下 理(慶應義塾大学)

出所: 商品開発・管理学会 HP を加除修正

商品開発・管理の研究は、現代社会の問題について商品(製品やサービス、ブランドを含む)を通じて解決しようという挑戦であり、社会科学や理工学、人文科学などの学際的なアプローチが求められる領域でもあります。商品開発・管理はまた、民間企業等ではイノベーションを推進するプロフェッショナルが求められる職能でもあり、産学連携等の交流研鑽が求められています。

さまざまな専門分野で商品開発・管理にご関心のある大学等の研究者、学生、ならびに民間企業等の商品開発担当者など産学が意見を交わし、課題を探るとともに企業戦略に役立つ情報発信を行っています。

### 3. 商品開発・管理学会の目的、事業、役員等

当学会の目的は以下の通りです。

- (1) 21世紀型自然環境保護の立場から、すべての商品開発およびその管理に関する問題を取り扱います。換言すれば、生活者がより高次な生活を営むための商品・サービスの研究およびその活動を促進します。
- (2) 商品開発に関する社会科学、自然科学、人文科学など学際的な協同研究および交流を促進します。

**Table 3: 商品開発・管理学会 歴代会長.**

第1期(2001~2003年)	横田澄司(椋山女学園大学)
第2期(2003~2005年)	横田澄司(椋山女学園大学)
第3期(2005~2007年)	横田澄司(椋山女学園大学)
第4期(2007~2009年)	恩蔵直人(早稲田大学)
第5期(2009~2011年)	辻 正次(兵庫県立大学)
第6期(2011~2013年)	余田拓郎(慶應義塾大学)
第7期(2013~2015年)	若林靖永(京都大学)
第8期(2015~2017年)	若林靖永(京都大学)
第9期(2017~2019年)	高橋幸司(鶴岡工業高等専門学校)
第10期(2019~2021年)	長沢伸也(早稲田大学)

出所: 若林靖永事務局長提供資料を基に加除修正

**Table 4: 商品開発・管理学会第10期(2019年8月~2021年8月)役員.**

任務分担	常任理事	理事	理事
会長(1名)	長沢 伸也(早稲田大学)		
副会長(1名)	木戸 啓仁(近畿大学)		
総務(事務局・会計担当) (各1名)	若林 靖永(京都大学) 平野 英一(明星大学)	小山 太郎(中部大学)	
会員拡大 (常任1名、理事1名)	大堀 幸治(株式会社明治)	新田 都志子 (文京学院大学)	
産学連携・付属研究所 (常任1名、理事2名)	滋野 英憲(神戸国際大学)	小川 長(尾道市立大学)	韓 文熙(北星学園大学)
学会賞 (常任1名、理事1名)	高橋 幸司 (鶴岡工業高等専門学校)	秋本 昌士 (愛知学院大学)	中西 眞知子(中央大学)
大会企画 (常任1名、理事1名)	橋田 洋一郎(専修大学)	岡本 哲弥(滋賀大学)	
学会誌 (常任1名、理事2名)	富田 健司(同志社大学)	岩下 仁(九州大学)	鈴木 拓也(静岡大学)
広 報 (常任1名、理事3名)	若林 靖永(京都大学) 平野 英一(明星大学)	安藤 和代(千葉商科大学) 森田 泰鶴(福岡大学)	市川 英孝(鹿児島大学)
幹 事(1~2名)		熊谷 健(早稲田大学)	増谷 博昭(京都大学)
会計監査人(2名)		伊藤 眞子 (鶴岡工業高等専門学校)	堀川 宣和(星城大学)

出所: 商品開発・管理学会 HP

- (3) 商品開発や管理に関する内外学会との人的交流および情報交換を行います。なお、本学会は2005年9月20日付けで日本学術会議より「広報協力学術団体」に認可され、さらに同年10月25日に「日本学術会議協力学術団体」として認可されています。

また、当学会の事業は以下の通りです。

- (1) 当学会は、春と秋または夏の2回、全国大会を開催し、会員からの自由論題報告等を行っています。
- (2) 学会誌『商品開発・管理研究』(ISSN 1880-0297)を年2回刊行し、査読付き論文、査読付き研究ノート等を掲載しています。
- (3) 本学会付属研究所は、産学連携等のプロジェクトについてセミナー等を開催しています。
- (4) 本学会の広報は学会ウェブサイトおよびニューズレター(紙媒体を郵送)の発行を通じて行っています。

なお、当学会の歴代会長を **Table 3** に、当学会第 10 期（2019 年 8 月～2021 年 8 月）の役員を **Table 4** に示します。

また、当学会が 2001 年に設立されてから 20 年間の全国大会開催実績を付表として末尾ページに示します。この 1 年あまりはコロナ禍のため、多くの学会と同様に集会・対面でのリアル開催が難しく、変則開催やオンライン開催を余儀なくされております。オンライン開催の場合の参加費の設定や参加資格、リアルとオンラインを併用するハイブリッド開催については悩んでおり、対処方法や有効な対策について他学会と横幹連合を通じて共有していただくことを期待します。

#### 4. 商品開発・管理学会付属研究所

当学会には付属研究所があります。横田澄司初代会長（椋山女学園大学、故人、マーケティングで高名）のリーダーシップで設立されましたが、付属研究所を有する学会は珍しいと思います。初代所長であった清水祥一先生（名古屋大学名誉教授、故人、品質管理で高名）による設立趣意（形式としては所長挨拶）を **Table 5** に、付属研究所研究例会およびセミナーの開催実績を **Table 6** にそれぞれ示します。

なお、名古屋市立大学での研究例会開催休止から神戸国際大学など関西地区での公開セミナー再開まで 4 年の空白がありますが、この間、あらためて付属研究所のあり方についての検討が行われました。その結果、現在は主として企業所属のビジネスパーソン向けの公開セミナーを開催しております。この、付属研究所セミナーの開催を通して、学会としての産学連携を加速させるとともに、新規会員の獲得に繋げたいと考えております。

#### 5. 商品開発・管理学会による出版実績

商品開発・管理学会設立 5 周年を機会に学会員有志による書籍を出版しました。内容を **Table 7(a)** に示します。

2021 年は当学会設立 20 周年の節目であるため、**Table 7(b)** に示す書籍を 20 周年記念出版する予定です。

#### 6. おわりに

いわゆるヒット商品では、「ヒットしたのは商品が消費者の感性に合ったから」と解説されることが多いようですが、このような後付けではなく「消費者の感性に訴えるように商品を作り込む」ことを目指すべきです。また、「思いがけずヒットした」というメーカーのコメントも

**Table 5:** 商品開発・管理学会付属研究所設立趣意。

グローバル化社会の到来により低迷した日本産業を再活性化するには、既存企業の抜本的改革と共に新事業を生み出す起業家の輩出が強く望まれております。商品開発・管理学会 横田澄司初代会長（当時、故人）は、学会の設立大会において実践的研究の重要性を強調され、付属研究所の設立によりその要望に応えたいと吐露されました。

この設立目的を達成するため、当面は意欲的な地元企業に協力し、さらに将来は全国的に事業家を企図する研究者等を援助して、新規産業創出に向け実践的研究の推進に尽力する所存です。

出所：清水祥一(2003)「商品開発・管理学会付属研究所所長挨拶」、商品開発・管理学会 HP を加除修正

**Table 6:** 商品開発・管理学会付属研究所研究例会およびセミナー開催実績。

2003 年 10 月 11 日 (土)	第 1 回研究例会「地域を活性化する起業家の養成と事業化」(名古屋市立大学, 名古屋市瑞穂区)
2004 年 11 月 21 日 (土)	第 2 回研究例会「企業文化による地域活性化 - 地域企業の振興を図る -」(名古屋市立大学, 名古屋市瑞穂区)
2005 年 12 月 3 日 (土)	第 3 回研究例会「最先端技術に挑戦する地域産業」(名古屋市立大学, 名古屋市瑞穂区)
2006 年 12 月 9 日 (土)	第 4 回研究例会「新事業創成と知的財産」(名古屋市立大学, 名古屋市瑞穂区)
2011 年 10 月 1 日 (土)	2011 年度第 1 回公開セミナー「産学連携による魅力ある商品開発と商店街活性化」 (近畿大学生物理工学部, 和歌山県紀の川市)
2012 年 3 月 10 日 (土)	2011 年度 (第 2 回) 公開セミナー「わが国食品企業が追求する顧客満足と高付加価値商品開発」 (ホテルアロード, 神戸市中央区)
2013 年 2 月 16 日 (土)	2012 年度公開セミナー「わが国食品企業の感動商品開発と市場対応」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2014 年 3 月 8 日 (土)	2013 年度公開セミナー「超高齢化社会のニーズ探索と商品開発」(神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2015 年 3 月 7 日 (土)	2014 年度公開セミナー「(第 2 回) 超高齢化社会のニーズ探索と商品開発」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2016 年 3 月 5 日 (土)	2015 年度公開セミナー「(第 3 回) 超高齢化社会のニーズ探索と商品開発」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2017 年 3 月 11 日 (土)	2016 年度公開セミナー「高齢化社会を支える健康・スポーツに関する商品開発・管理」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2018 年 3 月 10 日 (土)	2017 年度公開セミナー「高齢化社会を支える食の新たな取り組みに向けた商品開発・管理」 (よみうり神戸文化センター, 神戸市中央区)
2019 年 6 月 22 日 (土)	2018 年度公開セミナー「AI・IOT を導入した医療・福祉に関する商品開発・管理」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区)
2020 年 6 月	2019 年度公開セミナー (コロナ禍のため開催中止)
2021 年 6 月 19 日 (土)	2021 年度公開セミナー「コロナ禍により制約された対面環境を克服するビジネスの諸相」 (神戸国際大学, 神戸市東灘区) (開催予定)

出所：木戸啓仁副会長提供資料を基に筆者加筆修正

よく聞かれますが、これでは「何故ヒットしたか分からない」「次にヒットさせようとしてもヒットするかどうかわからない」と言っているに等しいのではないのでしょうか。やはり、マグレ当たりではなく、「ヒットする要素を商品に作り込んで、ヒットするべくヒットさせる」ことを意図してマネジメント（管理）する必要があります。一方、日本でつくると高くなるので、日本企業は工場を中国の沿岸部に移転し、人件費が上がると内陸奥地にシフトして、そこでまたコストが上がると今度はタイ、ベトナム、ミャンマーと目を向けます。アフリカまで行

**Table 7:** 商品開発・管理学会による出版実績.**(a) 商品開発・管理学会編 (2007) 『商品開発・管理入門』 中央経済社, 257 頁.**


---

第 I 部: 商品開発のフレームワーク

第 1 章: 商品開発の基本 (横田啓司: 岡山女学院大学)

第 2 章: 商品開発のシステム化 (岡本眞一: 東京情報大学)

第 3 章: 商品開発管理とデザインマネジメント (岩本俊彦: 東京情報大学)

第 4 章: 商品開発とブランド設定 (若林靖永: 京都大学)

第 II 部: 商品開発の組織と戦略

第 5 章: 商品開発のための人材育成 (塚田文子: 岡山女学院大学)

第 6 章: 商品開発における戦略的提携 (富田健司: 静岡大学)

第 7 章: マーケティングにおける市場志向 (岩下仁: (株) 野村総合研究所)

第 8 章: 商品開発とポジショニング (安田一彦: 東北大学・石岡賢: 福島大学)

第 9 章: 商品開発と知的財産戦略 (余田拓郎: 慶應義塾大学)

第 10 章: 新サービスの開発と最速価格-タクシー業界の事例- (宮崎茂次: 岡山大学)

第 III 部: 商品開発の事例

第 11 章: 技術経営 (MOT) と経験価値 (長沢伸也: 早稲田大学)

第 12 章: 大学における教育開発とマーケティング (井下理: 慶應義塾大学)

第 13 章: プリウス型ビジネスモデル (佐野充: 名古屋大学)

第 14 章: 環境・CSR マネジメントシステム「エコステージ」(矢野昌彦: 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング (株))

第 15 章: 時代の要請に応えた製品「Cook Do」の開発と育成 (高村基治: 中部大学)

---

出所: 筆者作成

**(b) 商品開発・管理学会編 (高橋幸司・長沢伸也・中西眞知子・若林靖永責任編集) (2021 予定) 『商品開発・管理入門 2』 中央経済社.**


---

第 1 章: マーケティングにおける商品開発・管理の全体像 (若林靖永: 京都大学)

第 2 章: 機能, 価格を最適化するコンジョイント分析 (堀江則之: 筑波技術大学・岡本眞一: 元 東京情報大学)

第 3 章: 3 クロス・プロダクト・カテゴリーの形成と商品開発・管理 (岩本俊彦: 東京情報大学)

第 4 章: 地球環境の持続可能性をめざす商品開発・管理 (宮崎茂次: 岡山大学)

第 5 章: 基礎技術・シーズから出発する B to B 商品開発・管理 (石川憲昭: アイマーク(株))

第 6 章: 消費者ニーズ駆動型 B to B 商品開発・管理 (安川雄一郎: 日本ポリエチレン(株)・余田拓郎: 慶應義塾大学)

第 7 章: 社会の再帰性と商品開発-クールジャパンの可能性- (中西眞知子: 中京大学)

第 8 章: 感性工学・経験価値と商品開発・管理 (長沢伸也: 早稲田大学)

第 9 章: 商品開発・管理におけるデザインの挑戦 (小山太郎: 中部大学)

第 10 章: 新カテゴリー創出を仕掛ける商品開発戦略 (小北眞紀子: 南山大学)

第 11 章: ゲームフィケーションを取り込む商品開発・管理 (濱田俊也: 京都大学大学院)

第 12 章: 市場志向を取り入れた組織における商品開発 (岩下仁: 前 神奈川大学)

第 13 章: 商品開発・管理における工学者・技術者の使命と課題 (高橋幸司: 鶴岡高等)

---

出所: 若林靖永事務局長提供資料を基に加除修正

ったらもうその先はないのに、いったい何時まで何処まで流浪し続けるのでしょうか。価値づくりから背を向け、コストダウンの消耗戦から抜け出せないでいると、ブランドも企業も疲弊して、せつかくの価値も目減りします。

やはり「日本で作ると高くなる」のであれば、日本らしさを生かして日本でつくっても「高くても売れる」「高くても熱烈なファンを生む」商品やブランドを目指す商品開発・ブランド戦略しかありません。もちろん、この実践も理論化も容易ではありません。

したがって、われわれ商品開発・管理学会の果たす役割と責任は益々重く、当学会の量的・質的拡大と深化を通じて新たな日本の強さを是非生み出していきたいと考えております。

商品開発・管理学会についてご紹介しましたが、横幹連合加盟学会を拝見すると、当学会の「商品開発・管理」に関係のありそうな学会が多く見受けられます。特に、経営情報学会、研究・イノベーション学会、国際戦略経営研究学会、日本 MOT 学会、日本感性工学会、日本経営工学会、日本経営システム学会、日本情報経営学会、日本デザイン学会、日本品質管理学会などと「商品開発・管理」について、学会横断的に連携できることを願っておりますので、よろしくお願いたします。

本稿をまとめるに当たり、当学会に関する資料を提供頂きました木戸啓仁副会長 (近畿大学) ならびに若林靖永事務局長 (京都大学) に厚く御礼申し上げます。

**長沢伸也**

1955 年生まれ。1995 年立命館大学経営学部教授などを経て、2003 年早稲田大学ビジネススクール (大学院経営管理研究科) 教授、現在に至る。工学博士 (早大)。仏 ESSEC ビジネススクールおよびパリ政治学院客員教授、LVMH モエヘネシー・ルイヴィトン寄附講座教授等を歴任。Distinguished Professor Award (IEOM Soc. Int.) 等受賞多数。Luxury Research Journal, Journal of Global Fashion Marketing 等 5 国際学術誌の編集委員・編集顧問。商品開発・管理学会会長、加飾技術研究会会長、日本感性工学会参与 (元 副会長)、横幹連合理事。編著書・訳書 121 冊 (内外国語 17 冊)、論文 457 編 (内外国語 213 編)。

付表：商品開発・管理学会 全国大会開催実績（2001年学会設立以降）

2001年5月12日（土） 第1回全国大会（創立大会）（名古屋市立大学山の畑キャンパス，名古屋市瑞穂区） 「新しい時代の商品開発と事業化」	2011年10月29日（土） 第17回全国大会（北星学園大学，札幌市厚別区）「価値創造とブランド構築」
2001年11月10日（土） 第1回秋季研究会（椋山女子学園大学星が丘キャンパス，名古屋市千種区）	2012年5月12日（土） 第18回全国大会（千葉商科大学，千葉市市川市）「国際化と商品開発」
2002年5月18日（土） 第2回全国大会（大阪大学豊中キャンパス，大阪府豊中市）「新素材，新技術による 事業創造」	2012年10月27日（土） 第19回全国大会（同志社大学今出川キャンパス，京都市上京区）「流通と商品開 発・管理」
2002年11月9日（土） 第2回秋季研究会（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス，神奈川県藤沢市）「商品開発 の基本原則－鉄と繊維を見直す－」	2013年5月18日（土） 第20回全国大会（青山学院大学青山キャンパス，東京都渋谷区）「マーケティン グ・コミュニケーションと商品開発・管理」
2003年6月14日（土） 第3回全国大会（早稲田大学本部キャンパス，東京都新宿区）「商品開発・管理とマ ーケティング」	2013年10月19日（土） 第21回全国大会（中部大学春日井キャンパス，愛知県春日井市）「アートと商品 開発・管理」
2003年11月15日（土） 第3回秋季研究会（東京情報大学総合情報センター，千葉市若葉区）「環境調和型社 会の商品開発と管理」	2014年6月21日（土） 第22回全国大会（鹿児島大学，鹿児島市）「地方発，商品開発のエンパワーメン ト」
2004年6月12日（土） 第4回全国大会（住友スリーエム株式会社カスタマーテクニカルセンター，住友ス リーエム株式会社カスタマーテクニカルセンター）「企業文化と商品開発」	2014年10月25日（土） 第23回全国大会（専修大学神田キャンパス，東京都千代田区）「アジアの成長と 商品開発・管理」
2004年10月30日（土） 第4回秋季研究会（くらしき作陽大学食文化学部，岡山県倉敷市）「地域企業の商品 開発力機構の課題」	2015年6月13日（土） 第24回全国大会（神戸国際大学，神戸市東灘区）「医療・健康・福祉に関わる開 発・管理」
2005年6月25日（土） 第5回全国大会（京都大学吉田キャンパス，京都市左京区）「京都のものづくり哲 学」	2015年11月21日（土） 第25回全国大会（明星大学日野校，東京都日野市）「日本型の商品開発」
2005年11月5日（土） 第5回秋季研究会（静岡市産学交流センター，静岡市葵区）「新価値創造による商品 開発と地域ブランドの構築－地方活性化に向けての産学連携－」	2016年6月11日（土） 第26回全国大会（愛知学院大学名城公園キャンパス，名古屋市北区）「高くても 売れる商品の開発と管理」
2006年6月10日（土） 第6回全国大会（早稲田大学本部キャンパス，東京都新宿区）「感性に訴えるものづ くり」	2016年11月19日（土） 第27回全国大会（滋賀大学大津サテライトプラザ，滋賀県大津市）「商業の視点 から考える商品開発・管理」
2006年10月28日（土） 第7回全国大会（金沢工業大学扇が丘キャンパス，石川県野々市市）「地域リソース の再発見による活性化」	2017年6月24日（土） 第28回全国大会（文京学院大学，東京都文京区）「社会の課題を解決するインク ルーシブ・デザインと商品開発」
2007年6月16日（土） 第8回全国大会（日本テクノセンター，東京都新宿区）「原点回帰のものづくり」	2017年11月18日（土） 第29回全国大会（尾道市立大学，広島県尾道市）「商品の差別化の源泉を探る」
2007年10月13日（土） 第9回全国大会（名古屋学芸大学，愛知県日進市）「商品開発システム・人・組織・ 方法のイノベーション－イントラベンチャーの試み－」	2018年8月31日（金） 第30回全国大会（京都大学吉田キャンパス，京都市左京区）「ロボット，ものづ くりネットワーク」
2008年6月15日（日） 第10回全国大会（立正大学，東京都品川区）「商品デザインと経験価値」	2019年3月8日（金） 第31回全国大会（福岡大学，福岡市城南区）：「エンタテインメントコンテンツと商 品開発・管理」
2008年10月25日（土） 第11回全国大会（九州産業大学，福岡市東区）「消費者の自己と商品－自己と商品 との関係から商品の開発と管理の方向について探る－」	2019年8月30日（金） 第32回全国大会（鶴岡サイエンスパーク，山形県鶴岡市）「中間都市における観 光振興」
2009年6月21日（日） 第12回全国大会（山形大学米沢キャンパス，山形県米沢市）「見える化による商品 開発と管理」	2020年3月27日（金） 第33回全国大会（講演・論文集発行のみ）（早稲田大学早稲田キャンパス，東京 都新宿区）「日本発の世界ブランドを目指す」
2009年11月8日（日） 第13回全国大会（富城大学食産業学部，仙台市太白区）「産業クラスターと商品開 発」	2020年8月29日（土） 第34回全国大会【オンライン開催】（早稲田大学早稲田キャンパス，東京都新宿 区）「日本発の世界ブランドを目指す」
2010年6月12日（土） 創立10周年記念第14回全国大会（中京大学名古屋キャンパス，名古屋市昭和区） 「変化する社会と商品開発－過去の系譜から未来を展望する」	2021年3月20日（土） 第35回全国大会【オンライン開催】（専修大学神田キャンパス，東京都千代田区） 『コロナ禍における商品開発・管理』
2010年11月13日（土） 創立10周年記念第15回全国大会（早稲田大学，東京都新宿区）「イノベーション と顧客価値」	2021年8月28日（土） 学会創立20周年記念第36回全国大会【リアルまたはオンライン開催】（静岡大 学静岡キャンパス，静岡市）（開催予定）
2011年6月11日（土） 第16回全国大会（静岡ベガサート，静岡市葵区）「商品開発と環境」	

出所：若林靖永事務局長提供資料を基に加筆修正